

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから、自由民主党、政策研究クラブ吉川の一般質問をさせていただきます。今回は3項目について通告をさせていただいております。1点目が市道認定の見直し。2点目が水害地の排水対策。3点目が新武雄病院の評価。以上3項目について質問を展開をしていきます。

それでは早速でございますが、まず市道関連についてですね、質問させていただきます。これは、さきの6月議会で質問させていただきました、各地域の区長さんを通じての、生活インフラの要望ですね。これが平成24年度でみますと、362件要望があって、実際実施できているのが、133件というふうなことで、133件にとどまっているということで指摘をさせていただきまして、何らかの予算措置を、ぜひお願いをしたいということで、お願いをしていたわけでございます。今年の当初予算をみますと、1億3,200万円が、こういった道路予算に組み込まれておりましたけれども、執行部のほう検討していただいきましてですね、9月の補正予算におきまして、1億500万ほどの予算を上積みをしていただいたわけでございます。非常にですね、最近、この予算を使つての事業を市内各所でですね、見受けることができるわけでありまして、このまず進捗状況をどのようになっているのか、お伺いしたいと思います。○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、9月補正の発注済み分は工事費ベースで83%進んでいます。年内には発注完了予定ということで、松尾技監を通じて、急ぐようにということ、私の方からお願い、指示をしているところであります。いずれにいたしましても、この生活インフラの整備っていうのは、やはり市民が快適で豊かな生活を送るためには、もっとも大切なものだと思います。ですので、きめ細かくできることは、早く迅速に対応するっていうことが私は樋渡市政の根幹だと思っておりますので、そういったきめ細かく、しかも早くということはそのまま堅持してまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

今、83%の進捗ということでございますけれども、先ほどの要望箇所からすればですね、この1億積み上げをしていただきましたけれども、まだまだ積み残しといったものがございますので、ぜひこれはまた新年度にかけてですね、この予算確保といったものに、財政当局努めていただきたいというふうに思うところであります。

この生活インフラの中でちょっと1点だけですね、お願いしたいことがございます。これ

は防災・減災というふうな観点からいったときの、交通安全の施設ですね。今各所で、この道路改良されていて、非常にきれいになっております。その一方でですね、やはり既存の道路を見てみますと、この白線ですね。中央線、それから外側線がございますけども、中央線と外側線がございますけども、そしてまた横断歩道もございます。こういったところのですね、白線が非常に見づらくなっているというふうなことで、これは昼間と夜間を比較したものでありますけども、夜間車で通っているとですね、非常に交差点があるのかどうかの、視認性が非常に悪くなっている。そしてまた路肩のほうですけども、外側線、これも消えているところが多いんですね。非常に通行しづらい。歩行者、あるいは自転車を発見しづらいという部分がありますので、こういった白線の消えかかったところについてもですね、重点的に予算配分をさせていただいて、新年度、取り組んでいただくことをお願いをしたいと思いますけども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、この何ちゅうんですかね、横断歩道とかっていうのは、これ市が責任を持ってやらなきゃいけないことなんですね。これは、この何ちゅうんですかね、画像でも出てますけども、交通安全施設として、市がやらなきゃいけない。ただしね、これは非常に厄介なところがありましてね、県の公安委員会に上申しないといけませんよ、これ、いちいち。だから、悪法も法です。だから、勝手に県の公安委員会の許可を待たずしてこれをやるっていうことは、脱法行為になっちゃんですよね。だからこれはちょっと見直しについては、ちょっとこれ求めたいと思います。何か事故があつてから、何か対応するっていうのだとね、取り返しのつかないことじゃないですか。だから、一定この部分っていうのは、地方分権、地方分権っていうのであれば、もう任せてほしいと。またこの公安委員会が遅いんですよ。ですのでそれは仕方ないです。さまざまな案件がこうやってきていると思うんですよ。ですので、数はわかりませんが、そういったことについてもね、ちょっと年明けに知事要望がありますので、その時にこれちょっと言おうと思っています。ですので、そういった中でこれは公安委員会のね、この部分について他もそうなんですけども、いくつも案件がありますので、公安委員会の許可がね、下り次第ね、やっていきたいと、このように思っております。予算の手当は十分にしていますので、今はそれを待ってるって、それを待ちたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

公安委員会、それから、県もそうです。そして市ですね、この3者連携をとってですね、

こういった部分の対策、防災・減災の対策をぜひ図っていただきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

それでは、市道認定の見直しについての質問でございます。これも半年ほど前にですね、お話をちょっとさせていただいたわけでありまして、県道武雄多久線。これは商業施設のトライアルさんの前のところの写真でございますけれども、ここを起点としてですね、駐車場と店舗の間が、里道になってるんですね。途中、市道の閻魔王線を通りまして、最終的には石木線。これ中学校に行く道でありますけれども、樋渡市長就任当初、広く拡幅をさせていただいたところがございます。ここまでの起点から、終点までのところがですね、やはりこういう商業施設がある。あるいは、住宅が両サイドに建ち並んでいるというふうなところがございますので、ぜひこういったところの市道認定をするべきだということで、お話をさせていただいたりしましたけれども、その後の協議の状況、どのようになっているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

一部、里道の部分と個人さんの敷地のところが、道路として使われているというふうなところもありまして、そこら辺の下地の分筆あたりが必要になってくるかと思っておりますけれども、そういったことで今協議をやっているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

協議の途中ということでありまして、ぜひこれもですね、早めに市道に格上げしていただきますようお願いをしたいというふうに思います。この要項はちょっといいですね。要項は理解できましたので。

このトライアルのところ以外でもですね、いろいろございます。これが国道35号線の西山のですね、お弁当屋さんの一花さんの前のところでございますけれども、ここを起点としてですね、市道の西山線、これは1級市道になっておりますけれども、この終点のところまで。ここもですね、この一花さんの裏のところは、公民館、あるいは神社がありますし、住宅も今新しく建設中がございます。地元にとっても、非常にですね、生活道路として重要な道路に今なっております。この路線を見ますとですね、堂島のところと今水道課があるところ、そしてちょうど若葉台の入り口のところ、大体3本しかこないんですね。ぜひこういったところもですね、市道へ認定をしていただいて、利用しやすくしていただきたいというふうに思っております。

それから、これはですね、橋の大日地区でありますけれども。手前がですね、納手大日線

がございます。ここを起点として、終点側が片白花島線ということで、ここもですね、地元のみなさんにとっては、非常に生活する上でですね、重要な道路になっているということ。

そしてまた、こういった里道になりますと、どうしても、地元で管理をしていかなければならない、拡幅工事をするにしてもですね、路盤を補修するにしても、地元が費用負担をしなければならないというのが、一番のネックでありますので、ぜひ、そういう地元には、そういう財源ございませんので、こういう利用頻度の高いところはやはり、市道に認定をするという考え方に立つべきだというふうに思います。

それと、これは橋中央線ですね。こちらが橋中央線で、手前が釈迦寺大日線でございます。ちょうど、この右手のほうに信号機、大きな信号機があるところでございますけれども。その先のほうがですね、納手沖永線が走っております。この納手沖永線と橋中央線の間、ここだけが里道としてまだ残されているんですね。どうしてもここに、信号機がある部分もあると思いますけども、車の交通量、非常にここ多いんですね。こういったところもやはり、里道から市道へ変更をぜひ、かけていただきたいというふうに思います。

これは、山林の中でありますけども、こういった人がなかなか通らないようなところも、これは昭和の合併当時からの話だというふうに思いますけども、市道に認定をされている。これもそうですね。これも市道です。林道かなというふうに思うようなところも、市道に認定をされております。これはこれで、市道としてですね、管理をしていただいて、結構かと思えますけども。

今回お願いをしたいのは、やはり大日だとか、上西山のようにですね、生活に密着したところについては、里道をぜひ市道に認定し直すべきだというふうに思いますけども、この点については、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

集落と集落を結ぶ、基幹的な市道、あるいは農道。それから里道であっても、地域住民の利用頻度が高い道路。まあ、市道であっても、先ほど言われましたように、利用頻度が限られている。そういった、道路等に区分してですね、地元の理解を得ながら、市道の見直しを行っていききたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ぜひ、お願いをしたいと思います。やはり、各区ではですね、財源的な問題が一番ネックにありますので、その辺を考慮していただいて、やっていただきたいと思えますし、今回は、大日地区と、それから上西山地区をちょっと例に挙げましたけども、市内全域をやはり、こ

う見渡していただいてですね、市道に格上げするところ、しないところ、そのやはり線引きをですね、ぜひかけていっていただきたいというふうに思っております。

次にですね、水害地の排水対策について質問をさせていただきます。

これはですね、六角川の堤外地と堤内地側の断面図をちょっと表したものでありますけども。6月、7月の雨季になりますとですね、こういうふうに越水をして、そして内水がつかってしまうというふうなことが起こっております。特に大きかったのが、この平成2年の7月、六角川の観測史上最大の洪水だというふうに言われたわけでありまして。これを契機にですね、先人の皆さん、行政関係者の皆さん、地元の皆さん、協議をいただいてですね、この築堤のところをハイウォーターレベルまで、かさ上げをするということで、河川計画を立てていただきまして、それに合わせて、排水機場も整備をしていただいたんですね。このことによって、本当にこの内水の被害といったものは、大きく軽減をすることができるようになってきたわけでありまして。

そこで、お尋ねでございますけども、これは高橋の排水機場でございますけども、こういった排水機場が六角川水系の中でですね、武雄管内で結構ですけども、どれぐらいあるのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

国の管理の排水機場が6カ所、県の管理の排水機場が2カ所、市の管理の排水機場が2カ所。排水能力におきましては、全体で124.6トンの1秒あたり排水能力があるというふうになっております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

全部で10カ所ですかね。国管理が6カ所、そして県が2カ所、市が2カ所ということで、10カ所ほどあるということですね。

考え方としてですね、このポンプによる排水といったもの、非常に大きな役割があるというふうに思います。全体として、これは私の私見でありますけども、7割ぐらいはやはり、このポンプに頼っていくことが非常に重要だというふうに思っておりますし、もう一つは、やはりその上流部でのカットをいかに抑えることができるか、これが3割ぐらいだというふうに、こう見ておりますけれども。

この、まずポンプという考え方と、上流カットという考え方、この2点からですね、質問させていただきますけれども、これは、北方の大崎地区、志久地区の図面でありますけれども、ここはですね、大崎地区は川添川という川がここに大きく流れております。ここに、平

成2年の大水害を受けて、川添川の排水機場をですね、地元の関係者の皆さんの御努力で、できたわけでありましてけれども、それから、下流の方向に行きますと、ずっとこういっただすね、樋門が設置をされております。ここの浸水状況を見ますとですね、今現在、一番問題になっているのは、この小学校を中心とするこの志久の地域。ここの一帯がですね、毎年水害に遭っているような状況であります。30ミリ、40ミリの雨が数時間続けばですね、ここが浸水をするといったことが実態であります。もう少し詳しくこう見えますとですね、ここの一帯には北方小学校がございます。北方小学校の通学路ということで、こういった、これが中央線ですね、北方の中央線でありますけれども、こういった道路が、通学路にこうなっているんですね。こういったところの危険性があるというふうなことで、学校を早く帰るとか、あるいは休校にするとかですね、そういった事態に陥っています。

そしてまた、もう一つ、この樋門のところ、広田川という川が通っておりますけれども、広田川のすぐ横に、このJRの踏切があるんですけれども、ここも浸水被害に遭うというふうなことで、JRがいつも不通になるところであります。ここの踏切が、浸水で不通になるということは、橋下地区からですね、来られるお子さんの通学ができない、学校に行けないというふうな状況もあります。そしてまた、大豆等ですね、この時期こうまくわけでありましてけれども、浸水被害によって、やはり農家さんの不満も出てきていると。

もう一つ全体的なことを申しますと、やはり北方町の一番中心となる部分でありますけれども、ここのまちづくりがやはり遅れてしまうといったことが、一番大きなネックになってくるといふふうに思っております。

そういうことですね、今現在のここの内水排除をどのようにされているかと言いますと、この川添排水機場がここがございますが、上流方向へ約600メートルさかのぼって、ここから排水をされてるんですね。しかし、この川添川の排水機場も完全な能力がございませんので、なかなかこの水も排出することができないと。この排水路もですね、非常に小さいんですね。こういう状況の中で、毎年毎年ここがつかっている状況にあるわけでありまして。そこで、こういった樋門が4カ所ほど、このエリアにありますけれども。これは広田川の樋門であります。ここをやはり、こううまく使ってですね、排水——内水排除をするべきだといふふうに思っております。これは堤外地側から見たものでありますけれども、この堤内地の水かさが増えてきますと、この樋門、もう閉めてしまいます。閉めてしまうとですね、もうここから排出することは不可能でありますので、内水のほうに水がどんどんたまっていくという形になっているんですね。これが、浸水している状況です。もう道路がこう、これ北方の中央線でありますけれども、道路までつかってしまっているような状況です。

ここで提案させていただきたいのは、この樋門をですね、うまく利用して、内水排除をできないかということで、今はですね、この樋門、ゲートに直接取りつける水中ポンプの排水機がございます。これが大体0.5トンから、1トンとか2トンとか3トンとか小型のレベ

ルのものでありますけれども、大体1トンくらいのやつで、ポンプの費用が約6,000万ぐらいというふうに言われておりますし、土工も含めるとですね、1億ぐらいの事業費でできるということであります。この内水をですね、このポンプで六角川の本線に出していくということでもあります。

合併して8年になりますけれども、この合併特例債が5年間延長になったということで、86億円ほど増になっております。ぜひ、この合併特例債をうまく活用してですね、この有利な財源を使って武雄市の単費でも結構だというふうに思います。ぜひ、このポンプの設置をお願いをしたいというふうに思っておりますけれども、この点について、当局どのように考えられるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

現状の六角川の可動の状況ではですね、水位がもう計画洪水位まで上昇してですね、堤防の決壊の危険性が高まるということで、これ以上のポンプの設置は、河川管理事務所のほうからできないというふうな回答をいただいております、これ以上ポンプの強制排水は許可できないということになっておりまして、今現在、国より、国のほうでですね、六角川の樹木や、あるいは掘削に取り組み、六角川の水位を少しでも下げるというふうなことで事業がなされているというふうな状態であります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、実態を少し申し上げますとね、ちょうど4年ぐらい前でしょうか、大水害がありましたよね。水害があったときに、先ほどの写真もそのときの写真だと思いますけれども、そのときに、誰とは言いませんけれども、下流域の首長さんがポンプをあけるのだけはやめてくれってということが再三再四私のところに直接あるんですね。それはそうなんですよ、うちはポンプを入れて、水をこう中に入れるってということだとそれはそれで、うちはいいんですけども。その分ってというのが全然減じもせず、下流域のほうに、こう爆流するわけですよ。そうすると、その関係もあるので、多分、国交省の河川事務所も、そこそこ考慮していると思うんですね。ですので、これは武雄市だけの問題じゃない。しかしながら、御指摘は、もうそのとおりですので、我々とすれば先般もう4年ぐらい前になりますけれども、山崎鉄好副議長を中心としてね、六角川の調整池の350万トンの、今整備を国にも働きかけていますし、国にも一定の――民主党のよかったのは、ここだけです。民主党、こいはいいですねって、言いましたもんね、もうそれだけでした。ですので、自民党さんもね、まあ公民党さんもそうですけれど、ぜひねこれは、民主党がいいって言ったから反対するんじゃないくて、や

っぱりですねこれは、いいことはいいというふうに引き継いで、やっぱり自公の政権にこう、ぜひね、この六角川上流部の調整池の件はお願いしたいと思います。

理論的にいって、この350万トンの調整池ができた場合に、水位が70センチ下がりますよ。70センチ下がりますので、これはね、絶対にやっていきたい。新たにダムをつくると、環境に負荷がかかります、お金も相当かかります。しかし、いま六角川のあれですよ、採石場。採石場の部分をやれば、その価格というのも3分の1から4分の1で済むというふうに聞いてますので、ぜひその働きかけもしてまいりたいと思っています。

ただし議員のね、その問題認識については、もうそのとおりだと思っていますので。よりポンプのね、性能が上がるようにね、上がるようにするっていう事は、ここは大事だと思っていますので、これをもって答弁にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

今調整——えっと採石場の350万トンのですね、調整池の話ありましたけども。これもやはり、これはもう最終の姿、恒久対策だというふうに思いますけれども、これが実現できるまでに恐らく、15年、20年の歳月がまだかかるんですね。その間、やはりこういった志久地区、あるいは橋の片白地区、こういったところの東側水域もですね、やはり、浸水に見舞われるというふうなことになるわけでありまして。

今、この川添川の排水機場、23トン毎秒ですね、のものが、設置をされとりますけども、この六角川ですね、今度は右岸側をこう見てみますとですね、ここ医王寺地区があるわけでありまして。医王寺の川のところにも排水ポンプ、つけていただいております。この医王寺の排水機場のポンプが、大体——よかですか？

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○12番（吉川里己君）〔続〕

医王寺の排水機場のポンプ、これ2トンのやつがついとるんですね。この2トンがついてるだけで、この医王寺地区の内水対策が、図れているんですよ。このポンプがなければ、医王寺地区もですね、つかるんですね。そういう考え方からすれば、一番北方の中心部であるこの地域が、いま浸水被害にあっているということであればですね、やはりこの樋門を利用して、この樋門ですね。この中の広田川でも結構です。ここにですね、先ほど言った2トンクラスのポンプをつけることによって、ここが排出できるというふうに思うんですね。

ポンプをつけるから、むやみやたらにね、ポンプを回すという考え方じゃないんです。こう全体を見回して一番今ネックになっているところは、ここなんですね。この水をやはりいかに排出をしてやるかっていったことは、非常に重要なことだというふうに思いますので、

国交省がね、ポンプはもうつけませんという考え方じゃなくて、ポンプをフルに回すっていう考え方じゃないです。つけといて、ここが浸水しそうになったときだけ、どっと流してやると。これはもう医王寺川と一緒にですね、同じ考え方でやはりやっていると、15年も20年もこの状態では、やはりまちづくりはできないでしょうということを、言っておるわけがあります。そのためにはやはり、国交省との交渉も必要でありますけども、これは市長がやはり政治的な判断です、解決をやはり図っていくところにもう来ているのではないかと、いうふうに思っております。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現実問題ね、これポンプをつけたら、もう周辺住民の人たちは、もう絶対フルにしてくれと絶対言うんですよ。これはね、いやそれを僕は否定しているわけじゃないんです。これは僕は現場を預かって、ものすごい矢のように、もう反対賛成、山のように来るので、いざ事が起きたときに、いやこれ60%にしますなんて、それは無理な話です。

で、私が議員の話聞きながら納得したのは、ここのポイントの部分は、ちょっと出してもらっていいですか、ちょっとさっきの。これ確かにね、地元の皆さんから、僕聞いているんですよ。ここ、もう1個前の。つくり込んでますね。（笑い声）ここでいうと、ケーブルワンさん御覧になられている議員さんからすると、一番右手のところになんていうのは、そこは私も聞いてます、議員とともに聞いているんですけども、そうなったときにね、いずれにしても、私の、これは独断では、これつけられないんですよ。六角川っていうのは、河川管理者は国土交通省、一級河川でありますので、できないっていうこと。ただし今思ったのは、一体ここを、本当にこのままでいいのか。河川の形状ってやっぱり変わっているんですよ、平成2年の時から、今とじゃ相当変わっている部分もありますので、一旦、ちょっと点検します。国交省と私どもで。点検をして、老朽化の問題とか、いろいろあるんで、恐らくこれは、例えばここの部分の能力を減らして、A地点の能力を減らして、ここをつけるっていうことになると、これはいわゆる、スクラップアンドビルドになりますので、この議論はできるかもしれない。しかし実際、でもね、一旦つけてある所をね、なくすっていうのは、これはなかなかやっぱしんどいですね。ですので、一旦ちょっとね、科学的にどれぐらいの効果があって、っていうのは、先ほど申したとおり、平成2年と、4年前とじゃ河川の形状等が変わっているということもありますので、一旦ちょっと技監に（笑い声）その総ざらいをちょっとお願いしたいと思います。国交省として。そこで合理的にね、一旦、国交省と協議をして、この必要があるっていうことであればね、それは私の方から申し上げたいと思っておりますので、一旦ちょっとこちらのほうに、私どものほうに、この議論というのは、預からさせてほしいとこのように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

ちょっと、先送ります。これはですね、排水ポンプの能力を——10カ所ございます。それをですね、能力別にこう出したものでありますけども、高橋が50トン、川添が23トン、板橋14、焼米13というふうな形でこうなっているんですね。その中で、先ほどおっしゃられた、124トンですか、総トン数は124トン、武雄市管内あるというふうなことでありますけども、その一部をですね、先ほどの広田川のところの樋門のところ、ポンプを据えるということ、ぜひお願いをしたいというふうに思うんです。やはりですね、この高橋第一だとか、医王寺だとか、鳴瀬だとか、こういう小型ポンプがですね、物すごく、その地域にとってですね、効力を発揮しているんですね。ですから、もう慢性的に、毎年毎年、浸かるその志久地区だとか、あるいはこっちの東川でもそうです。これは5トンから8トンまで、3トン増やしていただきました。これでもですね、ここの能力自体足りないんですよ。ですから、こういった、小さい対応策といったものを積み上げていってですね、本当にお困りのところを解決してあげる。これがやはり行政だというふうに思いますので、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私たちがほしかったのはこの議論なんですよ。でやっぱりこう数字でこう出していただくっていうのが、一番我々としても、説明のしがいがあるんで。ただこれね、例えばここは東川地区出てますけど、これをまた言うのは（笑い声）、ちょっと大変なんです。ですので、それはね、ぜひね、地元の議員さんもそうだし、言い出しっぺの、吉川議員さんもここはちょっと頑張ってもらいたいというふうに思っています。

この議論があると、どっかの地区を、2削ってね、広田地区に、例えば1.8とか2入れるっていうのは、これは、僕は可能だと思いますので、そうするとほら、下流域の首長さんたちにも説明しやすいじゃないですか。全体の総トン数は二百四十何トンで、それは全然増えても減ってもいせんっていうのはできますので、その議論はできます。でもなかなかね、難しいってのは、この7年半でよくわかりましたので、それは国交省と、先ほど言いましたように、松尾技監が、今、水害地の排水対策の対応室長に、今、任命しましたので、国交省と早速協議の上、もう1回これはきちんと報告をさせていただきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12 番吉川議員

○12 番（吉川里己君）〔登壇〕

市長が言われたようにですね、フルで50トンありますけども、23トンとかありますけども、これをいっぱいいっぱい使えということではなくてですね、これをうまく調整しながら、うまく管理しながら、こういったところも動かして行って、全体的にですね、つからないようにしていただきたいというふうに思います。

それとですね、これは排水対策の2点目でありますけども、これは川添川の上流部ですね。非常に引き堤をしていただきましてですね、広い立派な河川をつくっていただいております。ここでありますけれども、この河口部分を見ますとですね、JR橋が、ここございます。このですね、JRの橋の下を見ますと、橋脚が3台立っております。橋台のほうですね、この両側。両側の橋台のほうもですね、コンクリート、そしてまた矢板ですね、水制をされてる状況にあります。これ断面積からいってもですね、25%くらいの流量が、この橋脚のところですね、ロスが発生しているということで、流しきれない部分もございますので、ぜひここはですね、やはり改良をかけていく必要があると思うんです。

これはですね、高橋の川のところの、JRの高架橋でありますけども、この橋脚は、これだけ広いスパンで、1つしかないんですね。非常に水の抵抗を受けにくい。橋台のほう見てもですね、これフラットになってますので、まず抵抗全然ないですね。問題はここの水生植物が生い茂っている、土砂が堆積しているのは問題でありますけれども、それはちょっと度外視してですね、やはりこの高橋のような、橋脚、橋台にですね、この川添川も改良することによってですね、その浸水被害も大分小さくなるというふうに思いますので、ここもぜひ、改良をするべきだというふうに思いますけども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

川添川の下流部、JR下の鉄橋のところなんですけれども、これは県の管理区間でありまして、この分につきましては、議員の御指摘どおり、早急に解決できるように、県のほうと協議をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくお願ひします。それとですね、先ほど言いました、この水生植物のところですね、土砂が堆積しているところ。これは2年前に樋渡市長と地元の皆さんとお話しをしているときに、このJRからさきの、河口口のところについてはですね、浚渫の要望がございましたので、早急に対応をしていただきました。しかし、2年経過してもその上流部のほうはですね、今対応できてない状況にあるんですね。これもやはり、水害といったものから守るためには、ここの浚渫工事を、ぜひ進めていく必要があるというふうに思いますけども、いかが

でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの、川添川の改修と合わせてですね、一緒に県のほうに要望をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

それと、3点目になりますけれども、この北方の志久の上流部を見ますとですね、浦田ため池、あるいは西堤のため池がございますけれども、この上流に、こう大きなため池がございます。ここでのやはり調整機能といったものを働かせていく必要も、1つはあるのではないかというふうに思います。これは水利権の問題、利水されてる皆さんがおられますので、そこでの調整、協議が必要というふうに思いますけれども、やはりこういったスポットがございますので、ぜひそこを上手く利用できるようにですね、市当局が中心となってその辺の協議をやはり急いでいくべきではないかな、というふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

洪水時に、今上流部のため池を利用して、それを調整池として利用する。これは洪水機能、一つのため池に洪水機能を持たせるというふうなことは、有効な方策と思っております。そのためには、地域の協力も必要だと思いますけれども、農業用のため池というふうなことで、地域との調整、あるいは、ハード的な整備もいくらか必要になるかと思っておりますけれども、そういったことを含めまして、今後、事業化をできればやっていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくお願いたします。

先ほどから申しますようにですね、4年前の水害みたいに大きいものが来たときにはね、これはどうしようもないんですよ。ただ、その慢性的に、毎年毎年こう、つかっている地域、ここはね、やっぱりその採石場の調整池ができるからってというふうな考え方ではなくて、そこはそこでですね、やはり細かい対処をやはり市当局として、ぜひやっていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょう、吉川議員の質問で考え方が変わりました。それはどういうことかって言うと、ポンプをここだけつけるっていうことになるよね、それはさすがに、下流域の問題であったりとか、全然それは解決に、実はならないんですね、佐賀県の全体から見たときに。ただし、一定ほかのところの、恐らく、不要不急の部分ってというのは見たらあると思うんです。それを例えば、東川だけこうね、山崎鉄好議員さんの地元の東川のあれが出てましたけど、多分そうじゃなくて、全体として少しずつ削っていくと。それを今度のね、新たにいつもつかっているところに充てるってというのは、これこそが僕は市民の福祉の維持向上につながると思っています。

ただし、先ほど申し上げたとおり、これ私だけで決められるんだったらね、議会と。いいんですけど、これ国交省がさらに河川行政の立場として判断する話がありますので、ここはしっかり協議をしていきたいなというふうに思ってます。これは、黒岩幸生議員さんとか、小池一哉議員さんからも指摘がありますように、今つかっているところの中央線のところが、今度住宅地だとか、いろんなどころの張り付けになる可能性がありますので、さらにこの対応ってというのは一歩先んじてする必要があるだろうということもあわせて認識をしたところでもありますので、こういうことで、私もちょっともう変わりましたので、それで国交省とよく話をしていきたいし、地元の皆さんともよく話をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

それでは、3点目の質問ですね、新武雄病院の評価について質問させていただきます。この新武雄病院におきましては、開院して今4年。そして新しく新築移転をして2年半が経過をしようとしております。この4年間の中でですね、さまざまな——この4年間の中でさまざまなですね、動きがありました。民間移譲への反対する方々ですね、市長リコール運動。そしてまた、住民訴訟ですね。この住民訴訟も21億円、原告団出していたものを9億円に取り下げるとかですね。そしてまた最終的には、市の血税がこの住民訴訟によって、2,300万円失われるという結果になってしまったんですね。こういったこともあったわけでありまして。しかし、この民間移譲がスタートしたときから、この病院については24時間365日の救急医療。そしてまた、人間ドックとかですね、こういったものの予防医療といったものにも非常にこう努められております。そういうことで、武雄市のこの基幹病院としてですね、非常に

高い評価を私もしておりますし、信頼もしているところであります。当初、この民間移譲するときには、選考委員会がありまして、それを評価する委員会が立ち上げられたんですね。その評価委員会のこの動きっていったものも、非常に注目をしておるわけでありまして、評価委員会の評価の状況について、まずお伺いをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）評価委員会については、ちょっとこれ、数字を出していきたいと思うんです。ちょっと切りかえてもらってもいいですかね。

この緑の線が、平成22年の事業評価であります。それと青の時点が、平成23年度の事業評価。それで赤が、直近の平成24年の事業評価というふうになっています。これを御覧になられてわかるように、この武雄市立武雄市民病院移譲先病院評価委員会による評価については、これ5名の民間委員によって構成されてるんですね。信友浩一先生でありますとか、貝原良太先生であるとか、あと、お三方がこう入られて、民間の視点で経営者の視点で、あるいは医療的な観点からこう判断をされています。特にね、平成24年度は、救急医療の確保や地域医療機関との連携など8項目ある、市民病院の事業譲渡契約に関する事項についてはおおむね計画どおり。高度医療の充実や質の高い医療の提供など、14項目の医療サービスの質については計画どおり。経営の効率化や地域貢献など、6項目についても計画どおり、との評価であります。

それとさらに数字を申し上げますと――次これクリックで、ちょっと待ってくださいね、あ、そうそう。具体的に言います、雇用の創出がどうなったのかと。平成18年度の市民病院のときは、職員数が103人だったのが、これが平成23年度、またちょっと24年度はふえておりますけれども、新武雄病院関連で職員数が497人と、4.8倍になっているということであります。しかも、この旧市民病院の場合は職員数っていうのは、これは公務員でありましたので、これはある意味、私どものその税金なり、いろんなことがこうなってるけれども、今度は民間人でありますので、こういう雇用があつて、かつ、この雇用だけじゃなくて、この方々が、救命救急医療を中心としますので、近くにお住まいになってるんですね。武雄市ならびに武雄市の周辺に。その方々が、また新たな生活を送って、新たな市民になってくださっているということで、またいい効果が出ております。

それと税金なんですけれども、市民病院のときは赤字が最終的には15億円、膨らみました。しかし、さきの吉川議員、牟田議員にもお答えしてありますけれども、新武雄病院関連で、平成23年度で税収が8,500万円、これ税収増になっています、8,500万円です。これについては、固定資産税であるとか、いろんな、あとはそうですね、法人市民税とかその税収が8,500万円、丸々税収増になっていると。これが毎年毎年で10年間になると、8億5,000万になっ

ていくということになります。

それと、救急医療の充実、ここは多分、一番充実、大事だと思うんですけども、18年度、たらい回しのメッカであった市民病院、救急車の受け入れが、たった727人なんです。それで、これが私は、問題点、一番問題点だと思って、黒岩幸生、当時の市民病院の特別委員長にお願いをして、これは何とかしなきゃいけないっていうのを、特別委員長から、再三、御指摘がありましたので、今どうなっているかっていうと、2.4倍、救急車の受け入れが1,773人になっているんですね。これは、僕びっくりしました。僕、ランニングしてるとですね、救急車っていうのは、あそこに、こうクレジットが書いてあるんですよ。驚くことに、多久であったり、伊万里であったり、そういった方々も救急車で来られてるんですね。非常に、僕は救急救命士と話をしました、同乗されている。本当に助かってるっていうことを、おっしゃってくれてますので、これは武雄市だけじゃなくて、武雄市民以外のね、福祉の維持向上に。これは、谷口攝久議員は以前の議員で、これを否定されてるんですね、これ。もう一回確認してもらっても、いいんですけども。それでも、こうやって喜んで、これで武雄市民の福祉の維持向上が減じてるかっていうと、そんなことは全くありません。それで、これも危惧されました、地域医療との連携どうなんだと。市民病院の場合は、紹介率は34.5%でした。これ、もともとそんなに高くないんですよ、34.5%っていうのは。だけど、あの当時、リコールを主導された方々が、医療連携、壊れるとか言ったじゃないですか、でも今見ると、1.3倍ですよ。だから紹介率34.5%が、紹介率44.7%になってるんですね。これを整理すると、こういう状況に民営化の効果については、このような状況になっているんです。

これを考えた場合に、これは初めて言う話ですけども、私はもしこれが、うまくいかなかった場合は、市長をやめようと思ってました。これはそれで済むっていう問題ではないと思いますけれども、少なくとも、私が政治的生命をかけて、これをやるというふうに断行したものであり、これを議会の多くの議員の皆さんたちに、理解を求めるために、その当時の、黒岩幸生特別委員長、牟田議長、そして今の議長さん、そして、山口昌宏団長さんを含めて、断腸の思いで言ってるんです。ですので、この人たちは、少なくとも集団でやめようというので、引き連れてやめようと思ってました。

じゃあ聞きます。その覚悟が、当時、ちょうど5年前の今ごろ、リコールを伴う、リコール騒動を伴う選挙の真っ最中でありました。谷口攝久議員、平野——下の名前わかりません、平野議員さん、江原議員さん、小柳議員さん、吉原武藤さん、宮本栄八さんに聞いても、たぶんわからないと思います。石丸定議員さん、石橋議員さん、真っ向から反対をされました。しかも、さっき言われたような地域医療の連携が壊れる。あるいは、これで、武雄市の医療はがたがたになるということを、再三再四おっしゃって、あろう事か、リコール、自民党と共産党が組んでね、リコールということまで起こされました。住民訴訟も起こされました。しかし、この人たちは、何らこの評価に対して、言明はしてません。ただし、いろんな問題

課題はあります。ありますが、少なくとも当時、あなたがたがおっしゃっていたものに対して、一切合切、何も言明がないんですね。これは、僕は、政治家としては、それは僕はだめだと思います。私はもしね、先ほど言いました、その効果が上がってなかったら、まあ辞めます。うん、それは、だって市長としては不適格ですから。ですが、これは100%いいとは思ってません。100%いいとは思ってないですけども、いろんな患者さんとか、いろんな人たちの意見を聞きながらね、やっていこうというのに、その反対側の人は、もうナシのつづて、何もおっしゃりません。ですので、それはいかがなものかなというふうに思っていますので、ぜひ一般質問の際にもね、その当時、僕は責めているわけではないんですよ。ただし政治家は発言が全てであります、発言が全て。ですので、それはねぜひね、私も虚心坦懐に、特に、谷口議員さんにはお伺いしたいというふうに思っています。

いずれにいたしましても、民営化の効果については、100%じゃないにしても、この民間のね、評価委員会の皆さんたちが認めてくださるとおり、着実に成果が上がっているということについては、市民の皆さんたちに、きちんと、やっぱりここは報告をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

はい、先ほどもですね、雇用の増については、4.5倍増えているということで、500人規模のですね、雇用増になっているということ。それともう1つ、先ほどお話しはありませんでしたけども、看護リハビリテーション学校。この誘致も大きいですよ。企業誘致に匹敵するようなことだったというふうに思います。県内外から多くの皆さんが武雄に移住され、そしてまた、通学をされてですね、非常にこの武雄の町がこの病院によってやはり活気づいているというふうに思っております。

そしてまた、さっきの市長リコール、あるいは住民訴訟についても触れられましたけれども、やはり本当にですねこの4年間経って評価をする上ではですね、本当に当時の市長の判断、そしてまた与党議員の判断が正しかったということの証明だというふうに思っております。先ほどの、評価委員の皆さんの評価を見ても、すべて4以上にあったんじゃないかなというふうに思いますけども、4以上計画通りに進められているという評価をいただいている。それは私が高い評価をするのと同じだというふうに思いますし、また市民の皆さんもそのように感じられている方が非常に多いんじゃないかというふうに思っております。

それでもう1点ですね、この評価委員会の協議の中で、一般社団法人の巨樹の会が、この新武雄病院、運営をしておりますけれども、この巨樹の会の本拠地、所在地が下関に置いてあるというふうなことで、税務申告も含めてですね、武雄市へ持っていくべきではないかという評価委員さんたちの意見、御指摘等もあったかというふうに聞いておりますけども、そ

の後、この巨樹の会、新武雄病院の所在地、どのようになっているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、やっぱりあれですね、もう今だなと思ったのは、私の発言でメールが飛び込んできました。これ市民の皆さんなんですけれども、救急車だけでなく、自分の車で救急医療ができて、本当に嬉しいですよ。で、年中無休ってというのは、こんなに嬉しいことはありませんっていう、ここにメッセージが来てるんですね。ですので、やっぱり市民の皆さんたちも、やっぱりもうおわかりだと思うんですね。自分がやっぱり使ってみて、使ってみてといったら失礼な言い方になるかもしれませんが、病院に行ってみて、やっぱり命の大切さであるとかを、再認識していただいたと思いますので。ちょっと私、言い過ぎました、さっきは。もう恐らく、反対された議員さんも「ああ、これはしまった」ってもう思っていると思われるので、ちょっとそこを、もうこれからね、ネルソン・マンデラのように、やっぱりもう、責めないで、やっぱりこう寛容の精神でやっていきたいと思っております。

その中で、巨樹の会の所在地の、武雄市の何ちゅうんですかね、本店の所在地の件については、これは選考委員会の中でも、委員の皆さま方から、数度に渡って、実は御指摘があったところでありまして。で、この御指摘を踏まえて、本年7月1日に、巨樹の会の所在地が、下関市から武雄市に移転したという報告が、7月1日にですね、本年10月の直近の評価委員会の際に、病院側から報告がありました。で、その委員会から私も報告を受けましたので、これは非常に嬉しく思っています。法人の所在地がね、あ、さっき本店と申し上げましたが、間違えました。法人の所在地が、武雄市にあるということで、これは本当に市民の皆さんたちも、やはり自分たちの病院だということを深く認識してくださると思いますので、この武雄市の下関市から、法人の所在地が、下関市から武雄市に移転したことについては、心より歓迎をしたいとこのように思っております。この喜びを市民の皆さんとも共有したいし、反対された皆さんたちとも、これはぜひ共有をしていきたいとこのように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

以上3点質問させていただきましたけども、この1年間振り返りますとですね、この病院問題、それから図書館改革、さまざまな形でですね、樋渡市政、行財政改革を断行していただいたというふうに思っております。

この1項目めの市道認定、あるいは、水害地の排水対策についてもですね、ぜひ今後、力を入れていただきたいと思っておりますし、引き続き、この行財政改革のスピードを緩めることなくですね、突き進んでほしいと思っております。これで一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、12番吉川議員の質問を終了させていただきます。